

・ 合同ゼミまでの準備に関する感想と反省

私たちのチームでは夏休みから準備に入った。まず、終身雇用制とは何か？について学ぶことから始めなければならなかった。初め、終身雇用制とは定年までの長期雇用保障という何となく大雑把なイメージであったが、OJT や配置転換などの昔の日本の労働体系の代表のようなシステムであることが分かった。

私たちのテーマが、従来の終身雇用制のデメリットであった。学ぶ課程から終身雇用制には疑問を感じていたし、現在の日本では成り立っていないと考えていた。しかし、「従来」というある種の縛りがあったので、従来の時点におけるデータというものを探すことが本当に難しかった。現在の時点においては、非常にデータが豊富で探しやすかったのだが…。もっと広い視野（現在も含めた）から、従来の終身雇用制のデメリットについて調査してみたかった。

準備に関する反省・感想は、とにかくデータを集めることが難しく、データ不足のプレゼンになってしまったことに尽きる。また、労働者の問題なので、心理的な要素も大きいと考えていたため、データでは表すことが難しかった。

・ 合同ゼミに対する感想と反省

一番強く思うのは、ディベート大会なのに、相手チームとテーマが異なっていることから、主催者側の準備・打ち合わせ不足があったのではないかと強く感じる。

また、三年生同士の対戦のはずなのに相手が一年生であり、疑問に感じることも多く後味が悪かった。また、相手の大学ではディベートをゼミの主たるものとして教科書的に学んでおり、私たちのチームとの意識の違いやディベートに対する考え方の違いを強く感じた。相手は立論しそれを実証しようとしていたが、私たちは、ある種の問題提起になっていた。

また、質疑応答でもそれは顕著だった、相手チームは本気で議論しようとはしてくれなかった。相手からの質問は、データを示せ、事例は？というものばかりであった。質問をしてもデータではこうだから私たちは正しいと、可能性がある部分に目をつぶってまで否定していた。真剣に私たちの投げ掛けていたのだが、こういうことならばディベート大会の存在が問われる。これから四年生にそして社会人になる私たちは、こんなことにならないよう、学生らしく自由な議論の場に来るように協力していきたい。

唯一、良かったことといえば、私たちのゼミのOB・OGの社会人の方々と交流でき、様々な話を聞いたことだ。